

公共は誰のもの？

日々の活動から、公共が市役所のもの・政治家のものになっている。と感じます。公共とは大辞泉では「社会一般」となっています。であれば、役所の公共・政治家の公共等ありません。行政や政治家は、市民が公共を作るためのツールに過ぎないはずです。つまり、公共とは100%私たち市民のものです。では、100%市民のための公共を実現するためにはどうすれば良いでしょうか？①自治体等のコミュニティの強化。②素敵な企業を増やして市場を活性化。③そもそも、行政を良くする。：当然どれも正解です。その上で別の方法を提案します。それは「3つの領域の関係性を変える」です。従来の公共は、主権者である市民の意思とは乖離したところで、官が一方的な決定権を持って公共を支配し、官の勝手な都合で民に下請に出しています。ですので、公共サービスにおける民と官の関係性を変える事が大切です。自治体がアウトソーシングを行う場合大切なのは「コスト削減」もそうですが、それ以上に大切なのは「質の維持向上」です。コストもそうですが、誰が最も高い質のサービスを提供できるかで、実施者を決める事が肝要です。そして、質に基づき決める場合、役所の中で何回会議をやっても決まらないです。民間との対話でしか決まりません。私の望む施策を述べます。「市役所が行っている全ての事務・事業を対象に、市役所よりも自分たちの方が良いサービスを提供できる！という提案を民間から出してもらい、それを専門家や市民とともに審査する。」です。今までは行政で、この事業は民間にやらせても大丈夫だろうとか、安上がりになるだろうとか、勝手に決めてきました。そうではなく、行政がやっている仕事を全部開示・公表して、民間の側から、民間の手で奪い取ってもらおうのです。：実現するには少しだけ骨が折れそうです。でも、私はそのような公共を実現したいです。賛否両論あるのは承知です。でも、ほんの少しの改革意識と意思表示が集まっていけば、良い社会、街が形成されると信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成24年12月25日

増田好秀